

166 やま かみ ぐん 山の神のコナラ群



指 定 市天然記念物 平成9年3月14日
所在地 春 日
所有者 春日財産区保有林



植物分類上は、ブナ科、コナラ属、コナラである。別名をハウソまたはハハソと呼ぶ。漢名を“小櫨”と書くが意味不明である。普通は黄葉するが時には紅葉することもある。鹿曲川畔の小さな森で太いコナラが30本ほどあり地面はシナノザサが一面で景観も美しい。最も太いコナラは目通りは4.68mで直径は1.60mあり、佐久ではこれ以上のコナラ群はみえない。樹姿もよく、自然の文化財として貴重である。

この太いコナラの根元には、山の神の祠があり、また、脇には竹花扇の碑が建立されている。

コナラは里山に広く分布する木であるが、昔から薪炭材として利用され、切り出されて来たので、太い木が残っていることは珍しいことである。このコナラ群は、神の森として守られてきたものであろう。